



大学の世界展開力強化事業 取組概要

早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム (選定年度23年度 (タイプB-1))

【構想の概要】

本構想は、早稲田大学創設者・大隈重信が掲げていた「東西文明の調和」という理念に基づき、今後の国際社会において様々な分野で強いリーダーシップを発揮できる人物を育成するプログラムである。米国東部の5大学および西部2大学の計7大学との協働教育により、本学学部生のみならず米大学の学部生を将来の世界のリーダーへ育成していく。

【プログラムの目的・養成する人材像】

プログラムの目的: アジアの台頭により、世界の経済・政治・文化はますます多極化し、一つの国だけの問題でない地球規模の問題への取組が急務となっている。こうした世界において、アジア地域と西洋諸国双方の歴史、文化、社会を熟知し、その価値観を理解し、互いに尊敬・尊重しあうことで優れた判断や意思決定を行うことができる人物を育てる。

養成する人材像: 『東西文明の調和』の精神を更に深め、多様な価値観を尊重した意思決定を下すグローバル・リーダー。

東洋・西洋の歴史・文化・社会等の知識

世界共通の高貴な価値観- 勇気・奉仕・貢献

知的能力・人間力・コミュニケーション能力

地球規模の様々な問題を自ら提起し解決する 国際/政府機関・財界・アカデミクス等 各界でリーダーシップを発揮できる人物

実施した交流プログラム概要/準備状況

第3回合同推進会議の実施

第3回合同推進会議をH25年6月にジョージタウン大学で開催した。本会議には、既存の米パートナー校5大学(コロンビア大学、ジョージタウン大学、ペンシルベニア大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学)に加え、ジョンズ・ホプキンス大学およびダートマス大学も参加。計19名の米国大学教職員が集まり、①早大1期生選考プロセス、②米国大学における早大生の受入体制、③日米共同ゼミ教員によるゼミのシラバス説明、④米国学生募集方法、⑤プログラム評価他、プログラム運営に関する具体的な情報共有および議論を行った。



ジョンズ・ホプキンス大学、ダートマス大学の新規参加

第3回合同推進会議後、ジョンズ・ホプキンス大学およびダートマス大学より、プログラム参加の意思表明を受理。ジョンズ・ホプキンス大学については早大2期生の派遣から、ダートマス大学については米国2期生の受入からプログラムに参加することが決定した。いずれの大学からも、①少数精鋭の学生のためにデザインされたカリキュラムや受入体制の充実、②既存の米名門大学の本プログラムへのコミットメントの強さの2点を大変高く評価された。

ワシントン大学 オナーズ・プログラムとの連携

各大学における早大生受入体制について議論が進む中で、ワシントン大学は先方のHonors Programに早大GLFP学生を受け入れる体制を示した。ワシントン大学の中でも優秀な学生が集まる環境の中で、それらの学生と共に学び交流を深めることに留まらず、ワシントン大学では早大1期生と米国1期生が現地で共に学ぶセミナーが特別に開講されたことにより、米国学生の来日前から、日米フェロウズのコミュニティ形成が実現した。



質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

第1回 第三者評価委員会実施

H25年10月に初めての第三者評価委員会会議を実施。本プログラムのパートナー校であるカリフォルニア大学バークレー校教員を含む海外協定校教員、国内教育界・財界の有識者を含む評価委員会によるプログラムの評価が行われた。早大生の準備教育効果や、日米学生間のコミュニティ形成の重要性など教育に特化した内容から、補助金の運用方法や今後のプログラム継続方法等、多岐に渡る内容について活発な議論が交わされた。

カリキュラム検討委員会の実施

学内各学部のプログラム担当教職員が集まり、米国学生受入時のカリキュラムについて検討する委員会を実施した。

教育内容の可視化・成果の普及

留学ポートフォリオによる教育内容の可視化

留学中の早大1期生のアカデミックやソーシャルな体験を学生間や関連教職員と共有するため、留学ポートフォリオを導入。学生には、①自己紹介、②現地到着1カ月以内の近況報告、③留学先大学での体験や活動ブログ、④現地大学での履修科目、⑤プログラム提供カリキュラムに関する評価アンケート等について記録をさせた。このポートフォリオはプログラムの最後に振り返るための記録として、留学帰国後も卒業まで継続していく予定である。

ウェブサイトによるプログラム・成果の普及

プログラムに関する事務的な情報のみならず、参加学生の活動を紹介するため、ウェブサイトとリンクさせる形で"Archivesページ"を設立した。上記ポートフォリオと連携させながら、学生の留学中の活動や成長の記録を公に発信していくことで、プログラム認知拡大、および日米学生リクルートのための仕組み作りを強化した。



学生の派遣・受入を促進するための環境整備

派遣学生へのサポートおよび現地受入体制の整備

定期的実施した協定校訪問の場で、早大生の受入体制について意見交換を実施することで、ワシントン大学では"Honors Program"、コロンビア大学では"Scholars Program"という特別なコミュニティへの受入が実現した。その他の大学でも現地教職員による手厚いサポートを受けて、学生達は充実した留学生生活を過ごしている。

受入学生への広報活動の実施

H26年度からの米国学生受入に向けて、H25年9月にカリフォルニア大学バークレー校、および、コロンビア大学の留学フェアに参加し、現地留学中早大生と共にプログラム広報を実施した。また、米国学生向けのプログラム広報資料や早稲田大学のPR動画を制作し、米国大学と共有することで、現地での学生募集に大いに役立てて頂く事が出来た。



交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H25年秋学期より1期生となる早大フェロウズ10名を派遣。H25年入学者を中心に2期生を選抜し、新規協定校のジョンズ・ホプキンス大学への派遣学生を含める12名の学生をH26年秋より派遣予定。

米国留学生の受入

米国学生募集に注力した結果、当初10名枠のところを増枠の依頼を受け、計12名の学生をH26年秋より受入予定。

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	—	5*	10	13	14
受入	—	9*	0*	12	14

*本プログラム開始に先立ち、既存の交換協定に基づき交流開始
H25が交流実績、H26以降は計画